

第3回ワークショップの結果概要

1 地域別実行計画の方針（案）について

1) 方針（案）全般

- 用途別の再編方針案の中長期的取組みに「譲渡もしくは廃止する」とあるが、廃止と譲渡という言葉が並列で使われると、譲渡先を探す努力をせずに、結局は廃止するつもりなのではないかという不信感が生まれる。

2) 個別具体施設

(1) 集会施設

- 八尾農村環境改善センターには土地改良区が入居しており、資料も多く保管されている。集約するのであれば、土地改良区の今後を検討してほしい。また、卯花公民館と八尾農村環境改善センターそれぞれの体育館利用者のことも考慮して検討を進めた方が良さだろう。そのようなことを踏まえると、短期的取組みでは時間が足りないと思う。

(2) 文化施設

- 杉風荘については、古い建物で維持費もかかるため、今後の方向性案も含めて異論はない。

(4) スポーツ施設

- サンパークの利用率が低く、夜間の利用も少ないのであれば、夜間使用中止はやむを得ないのではないか。
- 夜間使用の中止については、夜間利用者からの意見を聞いた上で最終判断をしてほしい。

(7) 学校

- 今後の方向性及び具体的な取組みは、案の通りで良いと思う。
- 学校の統廃合については、本ワークショップのほか、農林課をはじめ様々な部署で議題となっている。教育委員会はもちろん、他部署の取組みや計画と連携をとりながら、方向性を検討してほしい。
- 樫尾小学校は、保護者等からの反対があり統廃合しなかった経緯がある。将来的に時期がくれば統廃合の流れに逆らえないことだとは思いますが、これまでの経緯を踏まえると短期的な取組みにあえて「統廃合の検討に着手する」と方針を示さなくても良いのではないかと。
- 入善町や朝日町では学校廃校後に校舎を活用し、他県から人が集まる農業研修施設とした事例がある。樫尾小学校も建物自体は古くないので、廃校後の跡地利用を検討することはできないだろうか。

(8) 幼保・こども園

- 統廃合などをする場合は、通園距離が遠くなることで送迎の負担が大きくなるように配慮してほしい。

2 個別具体施設の整備方針（案）について

（1）地域施設の再編案

■ A案

- 行政サービスセンター機能が八尾健康福祉総合センターに複合化されるのは、アクセス面ではこれまでとそう変わらず、生活行動の変化もないために住民の抵抗がないと思う。
- 行政機能を分散配置すると、利用者は移動しなくてはならず不便である。行政機能は1ヶ所に集約した方が良い。
- 車を利用しない者にとっては、バスが通る八尾健康福祉総合センターに複合化されたほうが便利である。
- 学校をはじめとした教育機能は八尾コミュニティセンター周辺に、行政機能は八尾健康福祉総合センターに集約と分けた方が、メリハリがあって良い。
- 災害が頻発している昨今、防災の関心も高まっている。洪水の浸水想定区域外に立地しているために、災害時の安全面では最も良い案である。
- 八尾健康福祉総合センターに行政機能と美術保存館の作品の一部が展示される場合、広さは足りるのだろうか。また、研修室の広い部屋は、老人会をはじめとした団体が催し等で利用していた。これまで利用していた方々が不便になることがないように配慮してほしい。

■ B案

- 最近の台風被害を見ると、行政機能が浸水想定区域内に移転するのは疑問である。安全面という視点では適していないと思う。
- 浸水想定区域内に行政サービスセンターが立地するのであれば、災害に備えてどのような対策をとるのか、避難場所や避難方法についてもあわせて検討してほしい。
- 行政サービスセンターは、浸水想定区域内に位置するとのことだが、八尾コミュニティセンターや新設の中学校もその区域内に立地している。浸水想定区域内と表記されることで、なぜそのような場所にコミュニティセンターや中学校を建てたのかという意見がかえって出てくる恐れがあるので、表記を変えたほうが良いのではないか。
- 不特定多数が出入りする施設が学校近くにあることで防犯面の不安がある。また、行政サービスセンターを訪れる人にとっては、子ども達がうるさいというデメリットが出てくるかもしれない。
- 公共施設が北部の杉原地区に一極集中する案となるため、他地区住民から異論が出るのではないかと心配である。
- 公共施設が1か所に集中することで、施設までの道路が混雑し、駐車場も収容しきれなくなるのではないか。
- 車を運転する立場からすれば、行政サービスセンターがどこにあっても利便性はあまり変わらないので、1か所に集約するメリットは感じない。

■ A案・B案共通

- 「八尾東町分館があった場所（ふらっと館）は、民間への売却や賃貸等で公益以外での活用を図る」という案だが、八尾地区住民にとっての八尾東町分館は徒歩で行ける便利で親しみがある大切な公共施設である。市の施設のままにしてほしい。
- 市民サービスのワンストップ化を考える時に、教育関係の部署に一般市民が行くことはあまりないので、必ずしも行政サービス機能と一緒にしなくても良いと思う。集約をする際にスペースがない場合は、教育機能は別にすることもありだと思う。

■ C案

- 機能分散することで利用者の利便性も低くなり、コスト削減にも貢献していないのではないか。
- 機能を分散することで利用者が不便になる上に、行政内の連携も難しくなるのではないか。
- どの機能がどの施設に配置されるかが分からないためになんとも言えないが、八尾地区住民にとってはふらっと館に分散配置するのではなく、八尾公民館に機能分散したほうが親しみが持てると思う。
- 行政機能を分散する案になるのであれば、八尾東町分館を廃止するのは惜しい。八尾小学校図書室と統合して図書室を市民に開放してほしい。

■ B案・C案共通

- 八尾コミュニティセンターに美術保存館の作品を展示することは、多くの人の目に触れて良いことだと思う。
- 行政機能が八尾コミュニティセンター、八尾健康福祉総合センター、ふらっと館に分散されると、各地区の公民館内にある地区センター機能は移転先の地区では廃止となってしまうのか。また、今の行政サービスセンターが立地している地区は新たにその機能を設けることになるのか。

■ D案

- B案は浸水想定区域内に位置し、C案も一部はそうになってしまう。最近の台風被害からもB案、C案は安全面で不安があるため、安全なエリアである中学校跡地に新たに複合施設をつくり、全ての機能を集約するという計画はどうだろうか。比較検討をすることは大切なことだと思う。

■ 共通の内容

- 図書館を集約することには異論はないが、学習スペースや子ども達が過ごせる場所は今後の動向を見ながら、必要に応じて地区内に残してほしい。
- 八尾地区住民にとって、八尾東町分館は親しみがある施設である。規模も丁度よく、旧八尾町の資料も充実している。八尾図書館に集約されることで、旧八尾町の歴史や資料が埋もれてしまうことが心配である。八尾東町分館は残してほしい。
- ほたるの里農村公園は、活性化に向けて様々な試みを始めている。努力に水を差すような「廃止」という文言が出てくるのには抵抗がある。
- ほたるの里農村公園は、富山らしいポテンシャルが高い施設である。民間への譲渡、もしくは廃止とあるが、廃止をするのではなく、民間に譲渡することでより魅力的な施設にしてほしい。広く企業に譲渡を呼び掛けて、うまく地域の民間組織と連携をとりながら運営していくことはできないだろうか。
- 化石資料館廃止の方針は、これまでワークショップで話題に出ていないと思う。貴重な展示品もある。美術保存館や化石資料館ともに簡単に廃止にするのではなく、まずはもっと周知したり、イベントを実施するなどして努力をし、反応をみてからでも良いのではないか。
- 化石資料館や美術保存館に保管されている資料は、人の目に触れてこそ価値があるものである。一部の展示物は八尾地域内に残し、その他の展示物は科学博物館等の来場者の多い施設に展示できるのであれば、施設の廃止

は良いと思う。

- 美術保存館の作品は八尾コミュニティセンターではなくふらっと館をはじめ八尾旧町の施設で展示するなどして観光に活かすことも一つの方法だと思う。あるいは、複数の場所に展示したり、定期的に小中学校等に展示しても良いと思う。
- 杉風荘は、市が運営した上で多くの方に利用いただきたいという思いはあるが、現実問題としてなかなか利活用されていないので、譲渡もやむなしだと思う。
- 杉風荘は歴史があり価値ある建物のため、建物を活かして民間活用してもらうことが望ましい。また、その際、すぐに取り壊されないよう、地域の思いを汲んでくれるような民間へ条件付で譲渡してほしい。
- 杉風荘は、市でまずは利活用の努力を再度した上で、それでも維持が難しい場合には、地元や民間等へ譲渡するといった段階を踏んでほしい。
- 八尾旧町に人が来る仕組みを作ることが大事である。杉風荘をはじめとした八尾旧町の機能を移転、民間に譲渡という案が出ているが、機能を減らせば人が訪れる機会が少なくなり、ひいては八尾地域全体に魅力がなくなってしまうことにもつながる。単に譲渡や移転をするといった考えではなく、民間の力を活用するなどして観光客が増えるような工夫をはかり、今ある旧町の施設の充実を図っていくことを検討していきたい。
- 施設を集約、あるいは廃止を実施した後、残った施設をどのようにするのかを検討した上で進めてほしい。施設をそのまま放置することがないようにしてほしい。

(2) 地区施設の再編案

■ a 案

- 卯花公民館は設備の整備がされている上に、地区の中心にあるので、集約化は住民の理解を得やすいと思う。
- 卯花公民館に集約化するのであれば、八尾農村環境改善センター内の土地改良区の事務所とは事前に協議・調整をした上で進めてほしい。

■ b 案

- 八尾農村環境改善センター内には土地改良区の事務所があるので、日々業務を行っている事務所の移転よりは、貸スペースが主な公民館機能を移転させた方がスムーズではないか。

■ a 案・b 案共通

- 地区施設の再編については、ワークショップの意見を参考にしつつ、最も実状がわかっている地区住民と話し合いを重ねて方針を決めれば良いと思う。

■ 共通の内容

- 現在も黒瀬谷公民館より黒瀬谷交流センターを利用している人が多いので、公民館を廃止し交流センターに集約する案は、改修等で部屋数の確保さえしてもらえれば、理解を得やすいだろう。
- 黒瀬谷公民館と黒瀬谷交流センターの集約化については、地元の方々の意見を大切にしながら進めてほしい。
- 部屋数の確保のために学校の余裕教室を活用することもひとつの案だが、学校内に住民が入るのはセキュリティ面で不安がある。

3 評価項目について

- 概ねこれまでの意見は反映されている。
- 評価方法が明確でないために、イメージがしにくい。住んでいる場所によって評価が様々になりそうだ。ワークショップに参加していない市民の理解を得るためにも、評価の根拠は明確にし、説明をしてほしい。
- どの再編案になったとしても、「⑤安全性の確保」は重要な評価項目である。想定以上の洪水が起こる可能性もあるため、特に安全面に配慮した再編案にしてほしい。

4 その他

- オープンハウスでの各案の共通事項に関する意見は、施設の実状や利用率のことなどを把握しないで「必要ない」「廃止はやむを得ない」と言っているように思う。
- オープンハウスが開催されたことを知らなかった。もっと告知をしないと、多くの人に意見をもらえないと思う。
- IT化、ペーパーレス化により、将来的には窓口サービスのやり方は変化するだろう。住民票の取得などの窓口サービスについては、わざわざ現地に行かなくてもネット等で発行できるようになると良い。そうすれば公共施設の再編についても早期解決できるのではないか。
- 新たにできる中学校は洪水の浸水想定区域内に位置するが、災害の対策は練っているのかが心配である。
- 室牧地区の最寄りの第1次避難所は八尾健康福祉総合センターであるが、アクセスが悪い。別の避難所を設けるなど改善してほしい。
- 八尾公民館に地区センターの機能を入れることはできないのか。